

教育長	部長	課長	係長	係

第 1 回 会 議 録

会議名	知立市文化芸術推進会議
-----	-------------

令和元年11月27日	開催場所	市役所第1会議室 14時00分～16時00分
出席者・委員	清水裕之、宇納一公、薫田八郎、三宅隆弘、橘玲子、三浦啓作、依田由加、永井淳子、稲垣英雄、村石正枝、川上陽子、David Hunt、岡松良典 (戸谷田知成委員、藤澤幸兄委員は欠席)	
事務局	宇野教育長、野村部長、奥村文化課長、近藤係長、竹内担当係長	
<p>1. 開会</p> <p>2. あいさつ (教育長)</p> <p>みなさん、こんにちは。本日は、ご多用の中、第1回の知立市文化芸術推進会議に御出席いただき、誠にありがとうございます。日頃は市民の文化芸術にありがとうございます。</p> <p>3. 委員等紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席委員自己紹介 ・教育長自己紹介 ・事務局自己紹介 <p>4. 会長・副会長選出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会長に清水委員を選出 ・職務代理者に宇納委員を指名 <p>5. 議事</p> <p>(1) 知立市文化芸術推進基本計画について</p> <p>会 長：それでは議事(1)知立市文化芸術推進基本計画について事務局から説明をお願いします。 (事務局：資料1, 2, 3に基づき、計画について説明)</p> <p>会 長：ご質問はありますか。</p> <p>宇 納：関連分野における有機的な連携について、知立市の条例の3条は「有機的な連携が図れるように配慮」とありますが、横浜市は「連携を図りながら積極的に情報を発信する」としています。本市の条例の「配慮」には「積極的に発信」することは含まれますか。各分野から意見が出てきた時に、知立市の独自の取組として発信することが含まれるかということです。特に教育、観光等</p>		

に力を入れている自治体が多く見受けられるのですが、知立市はいかがでしょう。

竹内：関連分野への取組は始まっているところですが、条例について「配慮」と「積極的に発信」は文字通り、違うところがあると思います。

会長：配慮が受け身で、積極的な取組を考えるべきではないかというご意見でしょうか。

宇納：わかりました。今後の議論の中でみなさんと考えていきたいと思っています。

薫田：具体的な例を1つお話しします。公民館、パティオ、文化協会それぞれ講座があり、それぞれ目的や意味があります。ただし、その違いを十分に理解していない市民も多いと思います。これから活動をしようとする人やしたいことがぼやっとしている人を対象とした、相談窓口のあり方を考えていく必要があると思います。また、公民館講座の受講者が、仲間をつくって継続して活動できるように働きかけていくことも重要です。受け皿や市民の人が積極的に入っていくしくみをつくるのが今後の連携に関する課題だと思います。

会長：有機的な連携が大事で、今後検討をしていく必要があるというご意見だと思います。それでは次の説明をお願いします。

(2) 市民アンケート／団体・グループ等アンケートについて

事務局：(資料4-1、資料4-2を説明)

岡松：年齢は、大学生のことを考えると、18歳以上にはいかがでしょうか。

三浦：市在住の市民に2,000人を対象としています。条例をふまえ、在勤・在学者も対象とすべきではないでしょうか。

事務局：知立市の住民基本台帳から無作為抽出を想定していますので、技術的な制約から市在住となります。

三浦：在勤・在学で代表的な企業・学校にも回答してもらったらいかがでしょうか。

稲垣：市老連の関係で、市内の専門学校に高齢者への防犯かるたを作っていただき、市民や高齢者と一緒に啓発活動をして、意味のある活動であったと思います。在勤・在学などを抽出してアンケートをするのも1つと思います。

会長：アンケートの統計的な処理に配慮しながら、可能であれば、学校や事業所などの把握について、事務局でご検討ください。

永井：団体・グループと同様に事業所や学校アンケートを入れてはいかがでしょう。また、市民アンケートの2,000人は妥当でしょうか。また、回収率は一般的にどれぐらいになると考えられますか。

事務局：市民アンケートの回収率は4割程度を想定しています。800人の回収があれば、全体の動向は把握できます。ただし、少し関心が高い人の回答者が増えるところがありますので、そういう傾向があることには留意する必要があります。

永井：回収率を高めるために、団体からメンバーに配布をすることもできますが、いかがでしょうか。

事務局：無作為が大切です。

宇納：意識の高い人の回答が増えてしまうのも問題ですね。

永井：そうしますと、どういう人の回答が少なかったのかを把握することも大切ですね。

会長：市民アンケートで、特定の団体に多く配布して、その影響が大きくなるのは避けるべきでしょう。今回、どうしてもこの対象者に聞きたいということであれば、その人を対象とした調査をすることになります。

事務局：調査方法として、市民アンケート、ヒアリング調査、団体アンケート・統計などを考えています。

会長：すぐに回答できないと思いますので、今いただいたご意見を参考に調査をご検討ください。

永井：文化芸術については、今回のアンケートが初めてということですね。結果を見てから、さらに調査が必要か考えるというのもあると思います。

稲垣：団体へのヒアリングは実施する、市民意識調査を初めて実施するということですね。また、これからの若い人の意見がとれるしくみをアンケートの対象にしてください。

会長：年齢は選挙権もあるし、18歳からということですね。高齢者も大事なので、年齢制限をせずに聞いてください。

村石：知立市は外国籍の人がたくさんいます。難しい言葉が並んでおり、アンケートの日本語表記を理解してもらって回答していただけるでしょうか。どの国の人も同じ目線でできるとよいと思います。若い人は小中学生も関係してくると思います。

永井：漢字で書いているのでわからない場合もありますが、日本語以外の配慮はしていますか。

事務局：今のところ想定していません。

会長：各国語に翻訳をするのは大変ですし、したとしても母国語の調査票を対象者に的確に届けることが難しいので、ヒアリングなどでカバーすることをご検討ください。

事務局：市民意識調査は全体の傾向をつかむ必要があるなので、個別のことは、ヒアリングでフォローをします。

宇納：アンケートの順番について、回答しやすさに配慮すべきです。また、施策の推進に関することなど重要なことを先にもってきてはいかがでしょうか。選択肢の順番も、質の高い公演が最初にあります。子どものことなどを最初にするイメージしやすいと思います。

事務局：設問の順番は、回答しやすいものから難しいものへという順番でご提案しています。回答者自身のことから、施設の利用状況、文化政策に関することの順に掲載しています。選択肢の順番について、難しい選択肢が最初に来ていないか再確認します。

薫田：このアンケートの概要は理解できます。ただし、知立独特の活動が入っていない箇所があります。別紙で意見を提出しているので、確認してください。知立市では生涯学習スポーツ課、文化課、リリオコンサートホール、パティオでいろいろなことをしています。これらの周知・認識について付加をしてください。この5～6年、幼稚園・保育園から小学校・中学校・高等学校までパティオが生の芸術を持っていっています。学校で子どもたちがどのような文化意識を持っているかヒアリングをしてはと思います。具体的に行われている文化事業がどのように周知されていますか。また、情報の収集方法、自分がどこから入ってどこに相談していくかについて知りたいと思います。性別の表現、茶室のことも書いています。知立固有のことがあるとよいと思います。

会長：最後にどうまとめるか、何をアウトプットにまとめるか、政策の重要性をどのように考えているかということが1つです。もう1つは、現在の事業をどのくらい知っているか、その2つが重要でしょう。それを個人の属性や鑑賞・活動で集計していくことで、それ以上のことはそれほど出てこないでしょう。この趣旨をふまえると、認知度は最初の方に持ってくるなど、事務局で設問の順番を再考してください。

稲垣：難しいのですが、鑑賞の分野と、活動の分野を一緒にしてはどうでしょうか。

事務局：映画など鑑賞は多いが、活動が少ない分野があり、同一にすると選択肢が増え、回答者に負担がかかることが悩ましいところです。活動については、文化協会の分野も参考にしています。

川上：鑑賞と文化活動は別の側面があるので、個人的には違和感がなく、分け方も別でよいと思います。

会 長：文化活動には文芸が入っていて、鑑賞に読書がないことをどのように考えるべきでしょうか。読書は図書館なので、別ということでしょうか。お茶やお花を見に行ったりする人もいるので、生活文化も鑑賞に入れたらどうでしょうか。なお、音楽と言っても、若い人とお年寄りでは思っていることが大きく違っていたりします。鑑賞と文化活動をそのあたりをふまえて、いくつかの可能性をふまえて、もう1度検討をしてください。

会 長：文化活動を困ることで、「気力がない・体力がない」ということは、特に高齢者であるでしょう。

村 石：最近、若い世代を中心にスマホを利用していますが、スマホで情報を得ていることは、どのように考えるべきでしょうか。

事務局：スマホで鑑賞をすることについて、市が税金を使って政策を打つことは、みえていない状況です。一方、スマホの利用を想定した情報発信は政策として考えられ、詳細に質問することも考えられます。

会 長：他でアンケートを取りましたが、SNSの中でも、フェイスブックは50歳代、ラインは10歳代など利用している世代が異なっています。

David Hunt：若い人は、Webで情報を得て、回答しやすい人も多いでしょう。

三 宅：紙面のスペースもありますが、パティオと歴史資料館は詳細な設問があります。市の施設が対象になっていると思いますが、リリオコンサートホールについても、同じような質問を入れてもらえるようであれば、ありがたく思います。

事務局：そのご指摘につきましては、前段階でいろいろ議論がありますが、知立市の計画ということですので、詳細に尋ねるのは、市の施設に限定しています。

会 長：全体の容量があると思いますが、今のご意見もふまえて、事務局、結論を出してください。

薫 田：団体アンケートは、パティオの利用者だけですか。

事務局：パティオとリリオコンサートホールに事前相談させていただいています。また、生涯学習については、教育振興基本計画・教育行政方針等がありますので、文化芸術に関わりの深いところにとどめています。

薫 田：ホールについて、パティオ・リリオでは敷居が高く、中央公民館でというグループもあるので、ご留意ください。

永 井：公民館について、中央公民館と猿渡公民館のみ対象としている理由はありますか。

事務局：市が所有している公民館は猿渡のみです。

会 長：これらのご意見をまとめて、修正をお願いします。アンケートの再集計の確認はどうでしょうか。では、なるべく反映していただいて、アンケートを出していただければと思います。

6. 事務連絡

事務局：次回の委員会は、アンケートの結果をふまえて3～4月を想定していますので、よろしく申し上げます。

7. 閉会

会 長：それでは、長い時間ありがとうございました。本日はこれで終了します。